

女性の就業と保育の問題

— 東広島市西条地区を事例として —

張 育 慶

(2012年10月2日受理)

The Problem of Women's Employment and Child Care in Japan
— A case study of Saijo, Higashi-Hiroshima —

Zhang Yuqing

Abstract: In recent years, the number of working women continued to increase as women have become more active throughout society in Japan. However, it should be noted that the working women have several problems. One of serious problems is how to take care of their children. In the past, most of Japanese families have living together with three generations, therefore grandparents always help young couple to take care of their children. However, in modern era, nuclear family has become very common with the change of industrial structure and social fabric. It is essential to reorganize the nursery school in order to the women can smoothly work in their workplace.

This paper aims to clarify the nursing conditions in Higashi-Hiroshima, focusing the change of the conditions of child care service, the policy of local government for child care, contents of child care service and its regional disparity, I conducted an intensive interview survey for mothers with infants in nursery school. Through the results of my study, I intended to consider the problem of the requirement by working women and the solution of child care.

It is insufficient of various childcare such as holiday care, a moment's childcare in Saijo. Looking at the features of the employment of women, the number of employee who work in tertiary industry is increasing. There are many women who are working long hours or engaging in work on Sunday and national holiday. So it is need to substantiate the content of childcare services such as holiday children and extended day care. In addition, child care for sick children is essential from the demand of their parents.

Key words: women's employment, child care, Saijo area

キーワード：女性就業、保育、西条地区

1. はじめに

近年、日本では女性の¹社会進出が進み就労女性が

本論文は、課程博士候補論文を構成する論文の一部として、以下の審査委員により審査を受けた。

審査委員：由井義通（主任指導教員）、前杢英明、
三宅紹宣

増加しつつあるが、その際に常に問題になるのは育児をどのように行なうかという点である。日本をはじめとしてアジア諸国ではかつては三世代同居が多かったので、育児には祖父母の援助のような親族による無償の保育支援が期待できた。しかし、産業構造や社会構造の変化を反映した女性の社会進出や保育に対する男女の意識構造の変化の中で、核家族が一般化した現在では女性が就労するためには保育所などの整備が不可

欠となってきている。

野辺（2010）はさまざまな保育サービスの現状を概観した上で、現在の保育制度をめぐる諸問題と保育制度改革の動きについて論じているなかで、保育施設と実施している多様な保育サービスを整理し、待機児童、保育士と保育の質、保育料の滞納などの問題を分析した。野辺はその分析結果をもとに、子どもの健全な育成に社会全体で取り組むため、保育サービスの量的拡充と保育サービス全体の充実を提唱した。

また、千田（2007）は少子高齢化による人口減少や年齢構成の変化による将来の労働力減少に対し、就労女性にとって仕事と育児が両立しやすい環境を整えることを目的とし、中高年女性による新たな保育サービスについて論じた。

先行研究の大部分は、保育政策の制度的変遷や制度の課題に関する研究であり、保育サービス利用者の実態を明らかにした研究は少ない。そこで本研究は、統計資料を用いた分析とアンケート調査による利用実態の解明を組み合わせることによって、地方都市における女性就業と保育の実態と地域的課題を明らかにすることを目的とした。

2. 研究対象地域

本研究の対象地域を東広島市とした。東広島市は1973年に広島大学の統合移転先が旧西条町に決定したことを受け、1974年に西条町、志和町、高屋町、八本松町が合併して東広島市として市制施行が始まった。その後、東広島市は2005年に黒瀬町、河内町、豊栄町、福富町、安芸津町を編入し、広大な市域面積をもつ自治体となった。

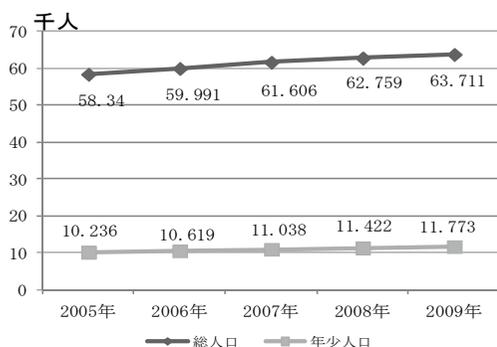


図1 西条地区の総人口と年少人口の推移

資料出所：東広島市次世代育成支援行動計画（2010年3月）より筆者作成

(http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/uploaded/life/21981_21762_misc.pdf)

西条地区は市の中心部であり、広島大学などの学術研究施設が集積、大型ショッピングセンターや金融機関も多数立地し、就業者や研究者、技術者、学生などが転入し、人口は増加傾向にある。また新たな住宅供給に伴って若年世帯の転入が多く、年少人口（0～14歳）は増加している（図1参照）。

2000年から2010年までの10年間の労働力人口の変化をみると、男性と女性の労働力人口とも増加している（図2参照）。東広島市における女性就業者数は、2000年から2010年にかけて13918人増加しており、2010年の女性就業率は49.6%である。このような女性就業率の増加により、保育サービスの需要が高まり、2000年の保育所数は29施設であったのが、2012年には55施設に増加している。

次に、5歳階級別労働力率をみると、総数では2010年の東広島市労働力率は2000年とほぼ同じで変化が小

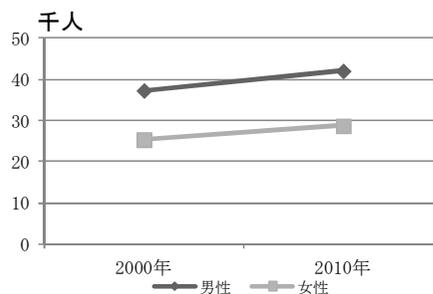


図2 東広島市男女別労働力人口

資料出所：統計局 HP 国勢調査より筆者作成
(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>
2012年6月1日閲覧)

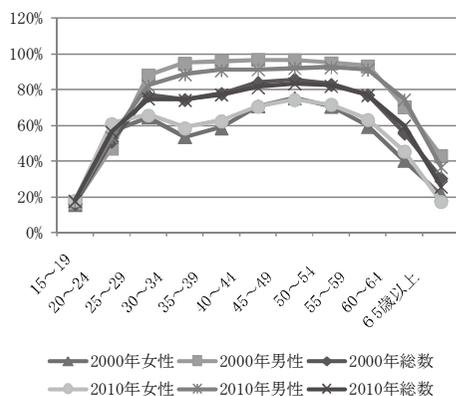


図3 年齢階級別労働力率（東広島市）

資料出所：統計局 HP 国勢調査より筆者作成
(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>
2012年6月1日閲覧)

さいが、男女別にみると、男性の労働力率は2000年より低下しているのに対して、女性の労働力率は上昇している（図3参照）。

男性は25歳から59歳までの各年齢階級で80%以上と高い一方、女性は25歳～29歳と45歳～49歳の二つの年齢階級で高く、35～39歳を谷とするM字型となっている。これは日本の多くの女性が、20代後半から30代前半にかけて結婚や出産により、就業を一時中断し、子育てがある程度落ち着いてから再び労働市場に戻ることを示している。2010年にはそのM字型は2000年に比べかなり浅くなっている。女性の晩婚・晩産化による子育て年齢の上昇は関連が強いと考えられる。

その上、国勢調査（2005年）の結果から、東広島市の15歳以上の女性就業者数をみると、事務従事者の数は最も多く、全体の24.6%を占めている。次は技能工・生産工程業者及び労働作業員、採掘作業員であり、全体の21.8%を占めている。専門的技術的職業従事者とサービス職業従事者は全体の16.8%と15%である。

表1 東広島市における年齢、産業別にみた女性の労働人口（人）

年齢	総数	第一次産業	第二次産業	第三次産業							分類不能の産業
				第三次産業総数	卸売・小売業	飲食店・食泊業	医療・福祉	教育・学習支援	サービス業	その他	
25～29	3507	18	718	2726	666	142	785	298	527	308	45
30～34	3808	31	921	2791	674	188	665	343	549	372	65
35～39	3686	26	862	2752	701	172	725	305	497	352	46
40～44	3899	41	818	2980	743	175	890	395	466	311	60
その他	22368	2780	3915	15350	4721	1577	3375	1367	2819	1491	323
総数	37268	2896	7234	26599	7505	2254	6440	2708	4858	2834	539

資料出所：統計局HP国勢調査（2005年）より筆者作成
 (http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm)

子育て期の母親が多い25～44歳の女性就業者の産業別就業人口をみると、約7割の労働女性は第三次産業に就業している。なかでも、卸売・小売業、医療・福祉とサービス業に就業している女性が多く、それぞれ28.2%、24.2%と17.3%である。25～44歳の子育て時期の母親の就業が多いこれらの産業は、非正規就業率が高い産業であると言える（表1参照）。

2.1 西条地区の保育所、幼稚園の現状

東広島市内の保育サービスの状況を見ると、認可保育所は46施設、認可外保育所は9施設である。認可保

育所は東広島市内で西条地区に最も多く（16施設）、次いで八本松地区（7施設）であり、認可保育所の数が最も少ないのが豊栄地区（1施設だけ）である。また、9施設の認可外保育所のうち、5施設は西条地区に立地している。

保育所の数は地区の特性と関連している。西条地区は東広島市の中心であり、密集した居住人口に対応して多くの保育施設を提供されている。

保育時間をみると、東広島市の認可保育所の保育時間は7時から19時が多く、朝7時前と夜19時以降の保育施設がない。また、土曜日に開園する保育所は40施設である。しかし、17時以降開園する保育所は22施設だけで、約半分の保育所は昼までの保育である。

入所状況をみると、福富地区（2施設）と豊栄地区（1施設）と安芸津地区（3施設）の入所率は100%未満であり、これら三つの地区の保育施設で受け入れに余裕がある。他の地区では、降園時間、特に土曜日の降園時間が遅くなる場合、保育所の入園率が高い。遅い時間までの就業と土曜就業の母親は多いため、延長保育と休日保育のニーズが高いと考えられる。

その上、保育所の入所率は保育所の受入年齢と関係している。大部分の保育所の受入年齢は小学校就学までだが、最低年齢の差が大きい。生後6ヵ月、特に生後3ヵ月から入所できる保育所の入所率が高くなっている。それは、非正規就業者には育児休業がなくて、収入を得るために産後直ぐから職場に戻るためであると考えられる。

表2 西条地区の保育所、幼稚園施設数、定員、現員、入所率

		施設数	定員(人)	現員(人)	入所率
保育所	公立	9	875	916	104%
	私立	6	650	685	105%
計		15	1525	1601	105%
幼稚園	市立	1	140	140	100%
	私立	3	685	622	90%
	国立	1	90	90	100%
計		5	915	852	93%

資料出所：東広島市公式HP (http://www.city.higashiroshima.hiroshima.jp/) より筆者作成

また、人口が増加しているために待機児童の問題が深刻な西条地区における保育サービスの状況を見ると、2010年10月1日時点における認可保育所は15施設、定員は1525人、入所児童数は1601人となっている（表2参照）。

表2をみると、西条地区の公立認可保育所は9施設で、私立より3施設多い。また、公立認可保育所の定員は私立の認可保育所よりも多い。しかし、西条地区

の保育所入所率をみると、公立、私立両方とも100%以上となっている。年少人口の増加に伴って、保育所を利用する児童の割合は上昇している。保育に該当する年齢の児童数の増加だけではなく、近年は、女性の職場進出、核家族化の進行を背景に保育ニーズは急速に高まってきていると考えられる。

次に、西条地区の保育所の内容について、認可保育所、幼稚園、認可外保育所に分けて以下に表示する（表3参照）。

保育所の規模をみると、公立保育所では小規模施設が少なく、100人以上が6施設（75%）、私立保育所では50人未満が1施設、50～99人と100人以上がそれぞれ3施設あり、私立より公立保育所のほうが定員が多い（表4参照）。

保育所の定員充足率をみると、85.7%の私立保育所の定員充足率は100%以上で、100未満が1施設だけで

表3 西条地区の認可保育所

公私	名称	定員	入所児童数	保育時間				土曜日	受入年齢
				開園	降園	開園	降園		
私	あおぞらキッズ	30	26	7:15	19:15	7:15	17:30		6ヶ月～3歳未満
私	あい保育園西条中央	90	91	7:30	19:30	7:30	19:00		3ヶ月～小学校就学時未満
公	御苗宇保育所	150	149	7:30	18:30	7:30	17:00		1歳～小学校就学時未満
公	三永保育所	105	113	7:00	19:00	7:00	17:00		1歳～小学校就学時未満
私	みづき保育園	60	66	7:30	19:00				生後3ヶ月～小学校就学時未満
私	玉法保育園	90	102	7:00	19:00				生後6ヶ月～小学校就学時未満
公	郷田保育所	80	71	7:30	18:30	7:30	12:30		1歳～小学校就学時未満
公	吉土実保育所	100	118	7:30	18:30	7:30	12:30		10ヶ月～小学校就学時未満
公	円城寺保育所	90	101	7:00	19:00	7:00	17:00		1歳～小学校就学時未満
私	愛育保育園	150	152	7:00	19:00	7:30	17:30		3ヶ月～小学校就学時未満
公	寺西保育所	120	141	7:30	18:30	7:30	17:00		1歳～小学校就学時未満
公	西条東保育所	110	122	7:30	18:30	7:00	17:00		1歳～小学校就学時未満
公	西条保育所	120	101	7:00	19:00				10か月～小学校就学時未満
私	青雲保育園	120	129	7:00	19:00	7:00	17:00		10ヶ月～小学校就学時未満
私	板城保育所	110	119	7:30	18:30	7:30	17:00		1歳～小学校就学時未満

資料出所：東広島市公式HP(<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/hoikushisetsu/list7-8-195.html>)より筆者作成

表4 保育所の規模類型

公私	保育児数			総計
	100人以上	50～99人	50人未満	
公立	6	2		8
私立	3	3	1	7
総計	9	5	1	15

東広島市からの資料より筆者作成

ある。62.5%の公立保育所の定員充足率は100%であり、100未満の3施設の中、2施設は90%未満である。公立より私立の定員充足率が高い。これは、降園時間の遅い私立保育所が魅力となっていると考えられる（表5参照）。

表5 保育所の定員充足率

公私	定員充足率				総計
	100～109%	110%以上	90%未満	90～99%	
公立	1	4	2	1	8
私立	4	2	1		7
総計	5	6	3	1	15

東広島市からの資料より筆者作成

公、私立保育所の開園時間はほぼ同じで、7時から7時30分までである。これは、働く女性が出勤途中に立ち寄って子どもを預けることができるような時間設定となっているからである。しかし、降園時には大きな差がある。公立保育所の降園時間は遅くても19時までである。そのうち5施設（62.5%）の降園時間は18時30分、3施設（37.5%）は19時である（表6参照）。

それに対して、私立保育所は1施設だけ降園時間が18時30分で、4施設（57.1%）は19時である。また、降園時間は19時15分と19時30分が1施設ずつである。

表6 保育所の降園時間（平日）

公私	降園時間（平日）				総計
	18:30	19:00	19:15	19:30	
公立	5	3			8
私立	1	4	1	1	7
総計	6	7	1	1	15

東広島市からの資料より筆者作成

平日より、土曜日の降園時間では公立と私立の保育所間で差がさらに大きくなっている。公立保育所では8施設のうち1施設は土曜日休み、2施設は午前中だけ開園している。また、土曜日17時以降の延長保育は全くない。

それに対して私立保育所は、2施設は土曜日休みだ

が、2施設は17時まで開園している。また、2施設は17時30分まで、1施設は19時まで開園している。これはスーパーマーケットなどのパート労働にみられるように、土曜日に就業している女性が多く、土曜日の保育の需要が高いことを示しており、就業している母親にとって公立より私立の保育所の利用を希望することが多いためと考えられる（表7参照）。

表7 保育所の降園時間（土曜日）

公私	降園時間(土曜日)					総計
	12:30	17:00	17:30	19:00	(空白)	
公立	2	5			1	8
私立		2	2	1	2	7
総計	2	7	2	1	3	15

東広島市からの資料より筆者作成

朝から晩まで預ける保育所に対して、幼稚園の開園時間は短く、ほぼ9時から14時までである。核家族の母親が仕事をするためには幼稚園の利用が難しい。また、幼稚園の受入年齢はほぼ3歳からであり、0～3歳の子どもを預けられないために、母親が利用できるのは保育所だけである。西条地区の幼稚園の入園状況をみると、板橋さざなみ幼稚園以外の幼稚園は全部満園である。これは板橋さざなみ幼稚園の立地が原因であると考えられる。他の4園は西条地区の中心地に所属しているが、板橋さざなみ幼稚園だけ市街地中心部から離れ、寺家地区に立地している（表8参照）。

表8 西条地区の幼稚園

	名称	定員(人)	入園児数(人)	開園時間(平日)	受入年齢
市立	御菌宇幼稚園	140	140	9時～14時(水曜日は9時～11時30分)	年齢満3歳以上
私立	西条ルーテル幼稚園	180	193	9時～14時	年齢満3歳以上
私立	西条幼稚園	220	220	8時～14時	年齢満3歳以上
私立	板橋さざなみ幼稚園	285	209	9時～14時	年齢満3歳以上
国立	広島大学附属幼稚園	90	90	9時～14時	年齢満3歳以上

資料出所：広島県私立幼稚園連盟ホームページ (<http://www.hiroshima-kenyo.or.jp/index.html>) により筆者作成

西条地区における認可外保育所は5施設である。このなかで、保育所ちびっこランド西条中央園、保育所ちびっこランド西条土与丸と広島大学ひまわり保育園の内容はほとんど同じである。しかし、広島新生学園ひまわり園はかなり異なっているが、同園はもともと戦災孤児の養育のためにつくられた施設だからである。広島市内から西条に移転した同施設は、農繁期に

表9 西条地区の認可外保育施設

名称	開所時間		定員	入園年齢
	平日	土曜日		
保育所ちびっこランド西条中央園	7:30～19:00	8:00～18:00	40	0歳～就学前
広島新生学園ひまわり園	7:00～20:00	7:30～20:00	108	1歳～就学前
保育所ちびっこランド西条土与丸	7:30～18:00	7:30～18:00	50	6ヶ月～8歳
広島大学ひまわり保育園	7:30～20:00		30	0歳～就学前
キッズアカデミー	7:00～20:00	7:30～20:00	100	0歳～小学校6年

資料出所：広島県HP(<http://www.nihon-u.ac.jp/research/careerway/SNS/ninkagai/ninnkagai/pdf/hiroshima-ken.pdf>)より筆者作成

地域の子どもの一時預りの要望に応じるなど、地域の保育ニーズに応え続けるために、これまで30数年間公的資金なしで、年中無休、延長、夜間、宿泊保育に対応した施設を運営している（表9参照）。¹

キッズアカデミーは0歳児から小学校6年生まで利用できる認可外保育所である。また、IPO ボランティア事務局から子育て支援をもらって、365日、24時間営業している。²

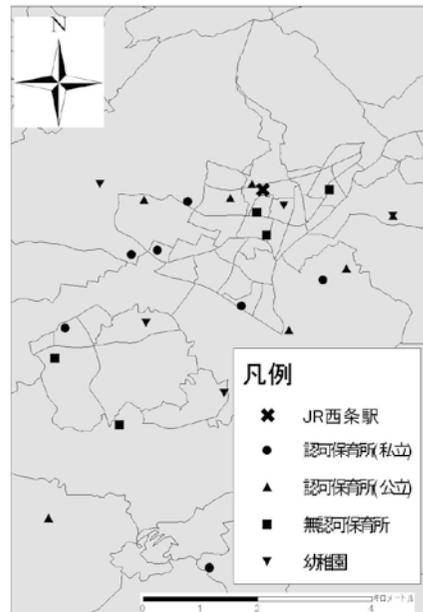


図4 東広島西条地区保育所、幼稚園の分布地図
東広島市からの資料より筆者作成

¹ <http://h-shinsei.or.jp/newpage3.html>

² <http://www.kids-kodomoen.com/index.php?FrontPage>

保育施設の分布をみると、大部分の保育施設はJR西条駅周辺の西条中央部に集中しており、田口、三永地区では保育施設が少ない（図4参照）。

2.2 西条地区の待機児童

東広島市で2010年4月1日時点の待機児童数は84人（すべて3歳以下の児童）である。9月1日入所見込みでは116人で、すべて3歳以下の児童であり、広島県内では三番目の多さである。

その原因は、先述べたように世帯数の増加に対して保育サービス施設数が不足しているためであり、また景気の悪化などで共働きをする女性が多くなって、保育所の需要が増えたためと考えられる。東広島市では、既存の保育施設の定員を増加させることによって待機児童数を少なくさせることを図っており、2009年から2011年にかけて大幅に待機児童数が減少した（図5参照）。

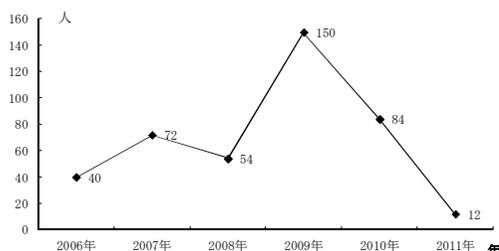


図5 東広島待機児度数

出典：東広島市ホームページデータ

(<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/hoikushisetsu/list78-195.html> 2012年6月1日閲覧)

3. 「東広島保育サービス利用者基礎調査」の分析結果

3.1 調査の概要

本章では広島市西条地区における子育て中の女性がどのように仕事と育児を両立させているか、子育てをしている就業女性に必要な保育サービスは何か、などの保育状況と保育に対する課題を明らかにするために実施したアンケート調査結果について報告する。

上記の目的を達成するために、2010年9月末から10月末にかけて東広島市西条地区の保育所と幼稚園に子どもを通わせている母親600人を対象としてアンケート調査を実施した。

日本では核家族が進む中、祖父母からの育児援助を受けない母親は仕事と育児を両立させることが難しいと考えて、調査票の問題について、家庭の人員構成に

ついての項目を含めている。

仕事をしている母親の働き方と保育利用状況に関連性があると考え、調査票の質問項目には、母親の就業状況と末子の保育先に関する項目を含めている。

今回の調査での回収票は176票で、回収率は：29.3%であった。

3.2 調査の結果

①母親の仕事と保育の両立

・母親の年齢と世帯種類

本研究の調査では、保育サービス利用者として母親が回答者であり、回答した母親の年齢は30～34歳が最も多く（80人、46%）、ついで、25～29歳（60人、33%）、35～39歳（31人、17%）であった。40歳以上の回答者は5人であった。

また、母親の年齢階級と就業状況をみると、30～34歳の母親は専業主婦の割合が高く、5割を占めた。それに対して25～29歳の母親では専業主婦は2割である。

また、職業分類をみると、25～29歳の母親は販売職・サービス職が多く、30～34歳の母親では事務職が多い（表10参照）。

表10 世帯の種類別・母親の年齢別にみた母親の就業状況

母親の年齢(歳)	三世帯同居					核家族					総計	
	25-29	30-34	35-39	40-44	小計	25-29	30-34	35-39	40-44	50-54		小計
専門・技術職						2	2	9	1		14	14
管理職							2				2	2
事務職		1			1	1	10	1		1	13	14
販売職/サービス職						18	2	2			22	22
生産工程・労務作業			2		2	3	6	2			11	13
パート・その他	7		1		8	17	14	2	1		34	42
専業主婦			1	2	3	12	43	11			66	69
総計	7	1	4	2	14	53	79	27	2	1	162	176

アンケート調査結果により作成

また、世帯の分類別に母親の就業状況についてみると、(外)祖父母と同居している母親は約8割弱が仕事を持っている。それに対して、核家族の母親の約4割は専業主婦である。

・祖父母との同居

平成22年最新の国勢調査により、東広島市の核家族

の比率は52%、三世代同居の世帯は5%となった。アンケート調査の結果により、祖父母との同居については、いずれかと同居していると答えたのは14人であり、東広島市の三世代同居率と比較して若干多く、8%で、残りの多くの世帯はいわゆる核家族世帯である。三世代同居者が少なく、核家族が多いため、育児には祖父母の援助が難しいと考えられる。たとえば、保育先までの主な送迎担当者を見ると、三世代同居の14人のうち10人(71.4%)の送迎担当者は(外)祖父母である。核家族の場合、父親の分担はわずかで85%(138人)の母親は自分で送迎を担っている(表11参照)。

表11 世帯の種類別にみた子どもの送迎状況

	母親	父親	(外) 祖父母	空白	総計
三世代同居	3		10	1	14
核家族	138	23		1	162
総計	141	23	10	2	176

アンケート調査結果により作成

・母親の就業状況

アンケート調査の集計結果から、母親の就業状況については、仕事を持っているのが107人(60.8%)であった。それに対して、仕事をしていない「専業主婦」は69人(39.2%)であった(表12参照)。

幼稚園に子どもを通わせている母親は16人全員が

表12 母親の就業状況と末子の保育先

	就業者	専業主婦	総計
幼稚園		16	16
認可保育所	82	35	117
認可外保育所	13		13
その他	3		3
無回答	9	18	27
総計	107	69	176

アンケート調査結果により作成

表13 母親の就業状況別にみた末子の保育先

末子の保育先	専門・技術職	管理職	事務職	販売職・サービス職	生産工程・労務作業	パート・その他	専業主婦	総計
幼稚園							16	16
認可保育所	3	2	10	22	13	32	35	117
認可外保育所	9		3			1		13
同居の親族がみている	2		1					3
空白							9	18
総計	14	2	14	22	13	42	69	176

アンケート調査結果により作成

「専業主婦」であるのに対し、保育所に託児する母親は大多数が就業者である。ただし、保育園児の母親の130人のうち、「パート・その他」として働いている母親は33人である。保育所と幼稚園との状況の違いがまず明らかとなった。また、仕事をもつ母親は、仕事と育児の両立が難しい状況において、約4分の1は「パート・その他」である(表13参照)。

子どもの登園時間を見ると、専業主婦の69人のうち60人(87%)の子どもは9時から10時までの時間帯に登園するが、多くの仕事をしている母親の子どもに登園時間は8時から9時までである。仕事している母親は出勤する前に子どもを保育先に預け、専業主婦は朝の家事をした後子どもを保育先に預けると考えている(表14参照)。

また、子どもの降園時間を見ると、17~18時までの間に集中する特徴がある。95%のパート・その他として仕事している母親の迎え時間は17~18時までである(表15参照)。

専門技術職の母親は18時以降迎えるのが最も多く、約43%を占めている。次は生産工程・労務の作業に従事する母親であり、23%を占めている。

専業主婦の迎え時間も17~18時が最も多く、40人(約58%)である。また、無回答を除いて、専業主婦の全

表14 母親の就業状況と登園時間

	7:00-7:59	8:00-8:59	9:00-9:59	10時以降	無回答	総計
専門・技術職			4	10		14
管理職			2			2
事務職		1	5	7	1	14
販売職/サービス職			19	3		22
生産工程・労務作業			11	2		13
パート/その他		1	23	18		42
専業主婦			4	60	2	66
総計	2	68	100	2	4	176

アンケート調査結果により作成

表15 母親の就業状況と降園時間

	15時前	15:00-16:59	17:00-17:59	18時以降	無回答	総計
専門・技術職	2		6	6		14
管理職			2			2
事務職			12	1	1	14
販売職/サービス職			21	1		22
生産工程・労務作業			10	3		13
パート・その他		1	40	1		42
専業主婦		19	7	40	3	69
総計	22	7	131	12	4	176

アンケート調査結果により作成

員が17時前に迎えに来ており、そのうち15時前が19人で、15時から17時が7人である。

・居住地

回答者の居住地は、西条中央（30%）、西条町御園宇（12%）、西条町寺家（12%）の中央地区が多い。回答者の分布をみると、西条中央、御園宇、寺家などの密集居住地である。それに対応して、これらの地区における保育サービスの需要も高い（図6参照）。

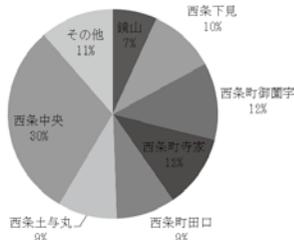


図6 住所の分布

アンケート調査結果により作成

アンケート回答者の居住地別に保育所の満足度をみると、満足しているが、12人は「どちらかといえば満足している」、3人は「どちらかといえば不満である」を選択した。不満を持っている3人全員が利便性の面では他地域より劣る田口の居住者であった（表16参照）。

表16 保育所の立地場所について

	15時前	15:00-16:59	17:00-17:59	18時以降	無回答	総計
専門・技術職		2	6	6		14
管理職			2			2
事務職			12	1	1	14
販売職/サービス職			21	1		22
生産工程・労務作業			10	3		13
パート・その他	1		40	1		42
専業主婦	19	7	40		3	69
総計	22	7	131	12	4	176

アンケート調査結果により作成

②母親からのアドバイス・意見

アンケート調査票には、保育所に対する希望を自由記述で回答する欄を設け、そこに書きこまれた意見をまとめた。

保育に対する希望については、「通常の保育だけでなく、もう少し豊富なプログラムを導入して欲しい」というような保育内容の充実を求める意見があった。母親は子どもの心身発展を重視し、保育の内容の多様化を期待している。

また、多くの母親は保育に対する希望については、「休日保育ほしい」という意見があった。それは多くの母親が休日勤務の多いサービス業に従事しているのが理由と思われる。

その上、アンケート調査では、夜間に働いている母親は昼間に公立保育所を、夜間には24時間営業しているキッズアカデミーを利用する例もあった。その母親は「公立保育所も夜間保育を提供して欲しい」というような意見があった。同じ施設で保育したほうが安心できるが理由と思われるが、公立保育所においては夜間保育は一般的には困難であり、このような需要に対応するのが課題である。

4. まとめ

日本では、核家族が進む中、親からの育児支援が困難であり、景気悪化で働きたい女性が増えている。また待機児童数の増加により、保育所の開設が必要である。東広島市では多くの待機児童数を解消するために、年度予算は保育所の整備を含めている。東広島市では、平成22年に待機児童ゼロを目標として、老朽化した西条・吉土実保育所公立保育所の統廃合や私立保育園の新設、認定こども園の開設推進に取り組んだ。また、平成23年、御園宇保育所の民営化に向けた取り組みがあるようである。

民営化、新設、認定こども園開設等により、東広島市の待機児童数がゼロになると予想がある。しかし、仕事と子育ての両立にあたり最も困難になることは、子どもの発熱など急な病気への対応である。西条地区、2010年の時点では、「木阪クリニック 病後児保育室「たんぼぼ」」という病後児保育1つだけであるため西条地区の病後児保育の拡充が不可欠である。また、働く母親の安心するために、日常預かっている保育所においても病後児を預かることができるような検討が必要と考える。

また、一般的に正社員の就業時間は9時30分～17時30分であり、残業なしで17時30分に退社しても迎えの時間は18時過ぎと考えられる。延長保育を利用しなければならない。しかし、西条の認可保育所の延長保育時間は遅くても19時30分であり、もし母親が残業した場合は、延長保育を利用しても施設の保育の終了時間が早い場合、就業中の母親が迎えに行くことは困難である。

その上、回答者の176人中、大部分はサービス業に従事し、平日でも保育施設が預かる時間内に就業を終える女性は少なく、土日曜日でも働く可能性が大きいと考えられる。しかし、西条地区では、延長保育の時間

が短く、夜間保育、休日保育ともない状態である。したがって、働く女性を支援するために、保育所の増設だけではなくて、病児保育、夜間保育、休日保育等な多様な保育サービスの充実が不可欠と考える。

【参考資料】

- 1) 野辺英俊「保育制度の現状と課題」国立国会図書館 ISSUE BRIEF NUMBER 667, 2010年
- 2) 千田亮吉研究会（明治大学）労働雇用分科会「女性労働力の有効活用へー世代を超えた保育サービス

の提案」, 2007年 ISFJ2007 政策フォーラム発表論文

- 3) 広島県統計年鑑

<http://toukei.pref.hiroshima.lg.jp/Folder11/Folder1101/File110102.html> 2012年6月1日閲覧

- 4) 東広島市ホームページ保育課保育所施設一覧

<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/hoikushisetsu/> 2012年6月1日閲覧

- 5) 統計局ホームページ国勢調査

<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm> 2012年6月1日閲覧